



会長のブログ

光陰矢の如し。私たちは2016-2020年のIRPAの任期のほぼ1年がたち、そして我々の計画についてペースを上げることが重要です。私たちは今、この期間の戦略計画 [irpa.net ホームページを参照] を発表し、様々なワーキンググループと委員会に委員を推薦することによってこの計画が実現できるよう、すべての加盟学会 (AS) に対して支援を依頼しました。私たちの戦略は、ASが自身の分野でより効果的になることについて支援するとともに、国際機関によって「専門家の声」が聞こえるようにするために設計されています。しかし、あなた方、専門家の全面的な支援と関与がなければ、これを達成することはできませんので、参加してあなたの経験と熱意を貸してください。

私たちの「専門家の国際的な声」活動プログラムの観点から、私はどんなにたくさんの組織が今私たちのインプットと関与を求めているのかと特に感銘を受けました。ほぼ毎週、私たちは依頼と招待状を受け取り、私はこの期間の初年度を通して26のイベントを数えました。これは挑戦です。財源やその他の限られた資源のために、すべてに携わることは不可能であるため、ASからの理事会メンバーの全員および関連する「専門家」を含む作業量の優先順位付けと共有が必然的に必要です。しかし、機会の多さは、IRPAがまさに今、私たちの利害関係者から「放射線防護専門家の国際的な声」としてみなされていることを示し、もちろん、これは我々が誇りにすることができるものです。

私たちは、IRPAが関与している仕事の一部についてお知らせするために、Bulletinを活用する予定です。私たちが2014年に出版した最上位の放射線防護文化ガイダンスをより実務的な医療に具体化するために、私たちの国際パートナーIOMPとWHOと緊密に仕事をしている医療における放射線防護文化の向上を支援する主要な計画プログラムについてはこちらをご覧ください。また、2月には、フランス学会 (SFRP) が「ALARAと合理性」に関するワークショップを開催し、防護システムの有効性に関するIRPAのより広い協議を支持しました。このイベントに参加できたことは大変喜ばしく、Bulletinで詳細を読むことができます。

ロジャーコーツ OBE
IRPA会長



STRATEGIC PROGRAMME
2016 - 2020



この「IRPA会報」の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

IRPA 出版委員会

委員長 Christopher Clement ・ 副委員長 Bernard LeGuen ・ 会報編集 Chunsheng Li & Ali Shoushtarian ・ 加盟学会リエゾン Adelene Gaw ・ ウェブサイト管理運営 Andy Karam & Chris Malcolmson ・ ソーシャルメディア管理運営 Sven Nagels & Chris Malcolmson ・ メディア校閲者 Sven Nagels, Young-Khi Lim, Takatoshi Hattori ・ 予稿集アドバイザー Haruyuki Ogino



第4回 医療における放射線安全文化に関する IRPA- WHO-IOMP地域ワークショップ

(Bernard le Guen, IRPA総務理事)

2008年の放射線防護文化に関するIRPA イニシアティブ、そして結果的にそれが2014年に放射線防護に関する最初の指針の刊行物となったことに続いて、2015年にIRPA はWHO (世界保健機関) と IOMP (国際医学物理機構) と協力し、**医療の放射線安全文化に関する提案を提出しました。**

IRPAの提案の目的は、医療分野においてチェルノブイリ事故後に開発された主要な原子力安全原則を利用することです。また、すべての専門家と患者が自然に願う安全な医療環境を創出するために、地域の状況を考慮して医者ニーズを特定する方法の共同開発も含まれています。

前3回の地域ワークショップ(2015年ブエノスアイレス、2015年ジュネーブ、2016年南アフリカ)の成功に続いて、第4回のワークショップは、ハマドメディカル・コーポレーションと中東医学物理組織連盟(MEFOMP)からの支援により、2017年2月にカタール・ドーハで開催されました。このワークショップにはカタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、オマーン、エジプト、レバノン及びヨルダンから合計135名のアラビア語圏の参加者がいました。

議論は、高度先端技術の爆発的増加及び患者と医療従事者のためのこれら技術の安全使用を支援するための文化について焦点が当てられました。たとえ、国の組織的な準備がしっかりしているように見えても事故はどんな国でも起こり得ます。例えば、フランスにおいて放射線治療事故が、何百という患者の過剰被曝という結果になりました。この事故は、訓練と再訓練の限界及び新しい技術とプロトコルがあっても人的要因は依然として重要な要素であることを浮き彫りにしました。2日間のワークショップの間、グループは多文化主義の特徴について熟考しました。私たちは全く異なる大陸と国から来るたくさんの医療人との一つのチーム内に共通の文化をどのように創造することができるのでしょうか？言語が障壁となるかもしれない間、これも作業手引きと同チームの一部を構成するこれらの専門家により受けられる訓練へ適用します。議論は安全文化を醸成する際の必需品、不可欠な要素として事象とニアミスを報告することを提唱する親切的システムを確立する方法についても焦点が当たりました。

次の二年間、IRPA-OMS-IOMPの共同の指針を開発するためのビジョンとともに、医療専門家に向けて、2017年11月にマレーシア、そして2018年2月に米国で最後のワークショップが計画されています。





ALARA原則の実施の合理性に関するIRPAワークショップ

放射線防護体系についてのコミュニケーションの対象に関してIRPAによって検討されているイニシアティブに従って、放射線防護(SFRP)のためのフランス学会は、ALARA原則の実施に関して、さらなる合理性の探求について述べるために、IRPA活動に沿ってワークショップを組織しました。

このワークショップは、国際機関の代表はもちろん異なるヨーロッパ及びアジアのIRPA加盟学会から30名の参加者とともに2017年2月23、24日にパリで開催されました。

ワークショップの目的は、1)ALARAの実施のレビュー及び最適化プロセスにおいて意思決定支援技術と利害関係者のそれぞれの役割を質疑すること;2) 合理性の概念を支える倫理的及び社会的な価値に関する議論を開始することでした。

ALARA原則及びその倫理的課題についての一般的なプレゼンテーションに加えて、ALARAの実施は3つの主要な状況(原子力セクターのALARA、医療セクターのALARA及び現存被ばく状況のALARA(主にラドンと事故後の状況))について述べられました。ワーキンググループが、異なる被ばく状況をさらに深く取り扱うために設立されました。

以下の主要な結論が取りまとめられました: 1) 特に医療分野において、正当化と最適化の間の関連性に対処する必要性。2) 合理的な被ばくレベルについて利害関係者との協議を開始する放射線防護文化の役割。3) ALARAの実施における合理性を取扱うが、限られた協議と意思決定プロセスで明示的にこの問題を取り扱うための既存の経験。4) 合理性の程度を評価するための基準の明確化についての不十分な協議。

このワークショップの結果を考慮し、SFRPは、ALARAの実施の合理性に関して議論を続けるために、2018年の秋に第2回IRPAワークショップの開催を提案することに決めました。この第2回ワークショップは、将来ALARAを実施するための統合されたそして段階的な手法の開発はもちろん廃棄物管理、非電離放射線および緊急事態のようなさまざまな状況をさらに研究する良い機会を提供するでしょう。主要な焦点は、ALARAの実施において合理性の程度を評価するための基準とプロセスの明確化について詳細な議論を開始することです。プレゼンテーションは、SFRP ウェブサイト(www.sfrp.asso.fr)で利用できます。

Thierry Schneider (SFRP 会長) & Bernard le Guen (IRPA 総務理事)





第5回IRPA欧州大会

オランダ放射線防護学会 (NVS) が主催を務める第5回IRPA欧州大会が、オランダ、デン・ハーグのワールドフォーラムで(the World Forum)、2018年6月4日から8日にかけて開催されます。

科学プログラム委員会 (SPC) は、2015年中頃以来、平均して3か月ごとに集まり、科学プログラムを準備してきました。現時点で、プログラムの骨格と主題が決定されました。プログラムの設計にあたっては、SPCは地域運営委員会 (LOC) と連携を密にしてきました。

科学プログラムは大きく4部で構成されています。通常の研究発表、リフレッシャーコース、ポスターセッションと若手研究者表彰セッションです。

研究発表は、主に全体セッションか並行開催セッションで行う予定です。5つの主題には「医療利用」と「産業利用」が含まれます。SPCは全体セッションに何人かの著名な演者を招待する予定です。

リフレッシャーコースは、従来のIRPA大会のそれとは大きく異なるものになりそうです。早朝の予備時間の代わりに、6月4日(月)と6日(水)の朝のリフレッシュコース群を企画しています。そして、それぞれのトピックについて少なくとも2つの講演、すなわち基礎的な講演と、特定の内容に関する最新の研究開発やより高度な試験についての講演を提供する計画です。この試みは、参加者のニーズにより効果的に応えたトレーニングセッションになると確信しています。

ポスターセッションも以前のスタイルから変わるでしょう。大会期間中を通じてすべてのポスターを呼び出せるデジタルポスターボードを使う予定です。そして、大会アプリを通じて、参加者はポスター発表者との会談を調整することができます。休憩時間中には、特別エレベーターピッチ*を開催し、数人のポスター発表者がポスターについての質問に答えます。これでポスター掲示板の前での長々とした行列は無縁になるでしょう。

* 記者注: エレベーターを降りるまでくらいの短い時間で行われる自己紹介



5th European IRPA Congress
4 - 8 June 2018
The Hague, The Netherlands

Encouraging Sustainability
in Radiation Protection



第5回IRPA欧州大会（続き）

全ての欧州の加盟学会は、若手研究者表彰(YPA)に候補者を立てるチャンスがあります。6月7日(木)午後には、すべての候補者はそれぞれの研究を発表します。その日の午後には、通常の研究発表は最小限、さらに可能であれば行わないようにし、そうすることで誰もが新進気鋭の若い研究者を見聞きすることができるようにします。YPAに加えて、さらにベストの若手研究者を公式に表彰するプランもあります。

上で述べたように、水曜日はリフレッシュャーコースに充てられています。SPCとLOCはいくつかのテクニカルツアーの企画に励んでおり、そのうちのいくつかはリフレッシュャーコースと組み合わせます。行先はまだ決定していませんが、医療分野、廃棄物関係、原子力の施設が検討されています。

若手放射線防護研究者のための活動はYPAだけではありません。月曜日の朝のリフレッシュャーコースの一つを、特別に若手放射線防護研究者とIRPA欧州学会の若手支部に提供する方向です。さらに、このグループによる特別ランチセッションも組まれるでしょう。このようにして、若手の参画を促しています。

大会運営としては、このプログラム概要説明が皆さんの興味を掻き立て、2018年の大会でお会いできるようになることを期待しています。登録は2017年3月に開始されており、今後、皆様の登録を心待ちにしております。私たちのウェブサイト www.irpa2018europe.com からダウンロードできる第2弾アナウンスに、詳細な情報があります。まだ参加登録の準備が整ってなくても、ウェブサイトから大会への興味を伝えることができます。

2018年6月4日から8日を、あなたの手帳に忘れずに書き込んで！

Hielke Freerk Boersma
第5回IRPA欧州大会会長
NVS 事務局役員





CIPRaM 2016

医療放射線防護イベロアメリカ会議(CIPRaM2016)は、スペイン健康・公共サービス・平等省(MSSSI)主催、スペイン原子力安全評議会(CSN)共済、WHO、JPAHO、IAEA、FORO、ICRP、IRPA共同企画で、2016年10月18日から20日まで開催されました。この会議は、イベロアメリカ諸国において、保健所轄部局における新しい国際放射線防護基準(放射線安全要件の世界的ベンチマーク)の適用促進と、ボン宣言によるアクションの呼びかけ(結構管理における放射線防護の10の改善点を示した)の適用を支援するために企画されました。医療放射線防護における情報と経験の交換し、この分野におけるイベロアメリカ諸国の協力体制の強化する機会を提供しました。

会議の目的は、1)イベロアメリカ諸国における ボン宣言によるアクションの呼びかけの進捗状況の評価、2)ボン宣言によるアクションの遂行における課題と、可能な解決策の認識、3)医療放射線防護を改善する良好事例の促進、4)ボン宣言によるアクションの呼びかけにおいて優先度の高いアクションの実現のための進捗指標の決定、でした。

会議には、南アメリカとイベリア半島から満遍なくそろえた99名の演者を含む、20の国からの250人が集まり、ボン宣言によるアクションの呼びかけの遂行の進捗状況を確認し、課題を抽出し、解決策を提案し、進捗指標を提案しました。会議は、開会セッションを含む全体会合、医療における放射線防護の歴史的な概観を含む導入セッション、以下の8つのテーマセッション、医療・歯科放射線診断、IVR、放射性医薬品と放射線治療、大学と研究機関の取り組み、技術・看護スタッフや医療業務従事者、放射線防護専門家の取り組み、保健当局や放射線防護規制機関の取り組み、で構成されました。

それぞれのテーマセッションは、キーとなる話題や課題、ボン宣言によるアクションの呼びかけの優先度を考慮した解決策や可能な実施指標についての基調講演と、基調講演者から提案された課題、解決策、指標に対するコメントや見解を示す、それぞれに関連する範囲や分野のキーとなるステークホルダーを代表するパネリストを含む円卓会議に、聴衆も積極的な参加する最終討論で構成されました。

会議は、医療放射線防護分野における地域的な連携の強化につながり、その結論は南アメリカ・イベリア半島諸国におけるこの分野の将来の業務への指針を与えるでしょう。IRPA副会長のEduardo Gallegoは大学・研究機関セッションの共同座長を務めました。その他の情報は、<http://cipram-madrid-2016.es/>を参照してください。





IRRS 2016 大会

(Lorraine Currivan, アイルランド放射線防護学会 議長)

アイルランド放射線防護学会 www.irrs.eu は、環境被ばくの影響から効果的な医療利用までの放射線の複合的な影響の理解につながる共通の志向を共有する科学者や医療従事者による独特の活発な団体です。

2016年の年次大会は、ダブリンのトリニティカレッジで11月11日-12日に行われました。この大会では、お互いに会って、アイデアを共有し、我々の分野の発展に貢献する機会となります。IRRSの会員にとっては、現在進行中の研究情報に最新の情報を加えるとともに、若手研究者に彼らが夢になっている仕事を紹介し、この学会に参加する機会を提供します。

Leicester大学がん研究・分子医療部門のDon Jones教授が招待講演者でした。彼は、「放射線腫瘍、化学療法、科学腫瘍におけるDNA損傷の機序と影響の測定」研究チームを率いています。Jones教授の基調講演では、DNA損傷評価の一般的方法のいくつかについて、それらの利点と限界、よくある落とし穴や誤解について、批評的に分析しました。

放射線防護・環境防護庁(EPA)のJack Madden教授による基調講演「Euratom基本安全指令のアイルランドへの導入—変化の時—」や、ダブリン大学博士課程のNail Murphyによる「HPGeスペクトル測定へのモンテカルロモデルの適用開発」を含む、いくつかの放射線防護に関する発表が行われました。

さらに、以下に示すいくつかの共同研究のポスター発表がありました。1)日本の瓶詰水の放射性核種分析中間報告(EPA-弘前大学)、2)ウォーターフォード工科大学のHPGe検出器システムの設置と海水試料分析(EPA-ウォーターフォード工科大学)、3)古い電着試料の増加 ^{241}Am アルファ計数による $^{241}\text{Pu}/^{239,240}\text{Pu}$ 比の決定(EPA-ダブリン大学-ダブリン工科大学) 4)抽出クロマトグラフィー樹脂を用いた海水中 ^{134}Cs 迅速測定法の定量評価(EPA、ダブリン工科大学)

全てのプログラムは以下で見ることができます。

<http://irrs.eu/documents/IRRS2016Scientificprogramme.pdf>





ロード・カーライルが英国放射線防護学会の初代パトロンに

英国放射線防護学会 (SRP) は、ロード・カーライル (ベルリエウ、王室顧問弁護士、大英勲章第三位) が、初代パトロンへとしての招聘を受け入れたことを発表することを喜んでいますが、

SRP は、産業界、医学界、学界、規制機関からの 2200 人以上の会員を有する放射線安全とセキュリティを専門とする公認組織です。50 年以上前に学会として設立された SRP は、現在、有数の専門組織として成長し、公認放射線防護専門組織として登記を有しています。

「この変化を認識した上で、SRP はその活動を議会場にも広げることを望んでいる。」と、SRP の理事であるピーター・コール教授は説明しています。「放射線防護に係る案件が議会に掛かることは頻繁にはないが、もしそうなれば、当学会はそのような議論において顕著な貢献を果たす立場にあるべきと確信しています。この目的を果たすために、議会パトロンの存在は大きな助けとなるでしょう。セキュリティ関係分野に長年にわたって携わり専門性を有するロード・カーライル氏は、学会の新たな役割に対する外部相談役となります。」詳しくはこちらを参照してください。 <https://srp-uk.org/news/article/172/lord-carlile-to-be-srp-s-first-patron>

眼部線量モニタリングについてのIRPAガイドライン

私たちは「**眼部線量モニタリングと作業者の眼部防護の実施のためのIRPAガイドライン**」が発行されたことを発表することについても喜んでいますが、

ご存じのとおり、国際放射線防護委員会 (ICRP) は、2011 年 4 月に、従来の視力を損なう白内障の閾線量を 1 回照射で 5Gy、分割照射で >8Gy としていたものを、0.5Gy を限度値とする白内障の発症に係る眼部線量に改めました。

さらに ICRP は、計画被ばく状況における目の水晶体の等価線量の限度を、年間 150mSv から、既定の 5 年間の平均で年間 20mSv で単一年で 50mSv を超えないように低減することを勧告しました。この新たな限度値は IAEA 国際基本安全規準 (BSS) と、加盟国が 2018 年 2 月までに実施しなければならない Euratom 理事会指令に取り入れられました。新しい IRPA ガイドラインは、先に ICRP が示した閾値を説明するものです。

文書は、我々のウェブサイトに掲載されたところです。 www.irpa.net

これらの新しい文書が、所定の IRPA にとって有益なツールであることを願いつつ、読者の皆様が楽しんで読んでいただけることを望んでいます。

敬具

バーナード・ル・グエン、MD、PhD、IRPA 役員